令和５年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑩障がいのある子どもの育成支援

◆　本科目を通じて学んだことは、指導者の対応で大きく子どもたちの行動や感情が大きく反応するということだと分かりました。否定的なところばかりに注目するのではなく、肯定的なところに注目して、しっかりと褒めることが大事だと思いました。今後子どもたちには具体的で分かりやすい伝え方をしながら、たくさん褒めて成長を見守っていきたいです。

◆　子どもと関わっていく中で、より具体的に接していくべき対応を学ぶことができました。子どもの行動には色々な意味があり、それを推測することが大事で、その上で言葉や行動の意味が分かると自然な対応ができることから、言葉掛けの大切さを知り、今後理解しながら活かしていきたいです。私たちは環境の一部であり、子どもの好ましい行動に注目しながらバリアとならないように働きかけて対応していけるよう努力していきたいです。

◆　子ども一人一人に対して、悪循環を作り出すのではなく、肯定的な注目をして信頼関係を築いていきたいと感じました。子どもの行動の背景を推測し、考え、肯定的な注目を増やし、子どもの好ましい行動を増やしたいと思いました。また、怒りというのは脳の働きが悪くなるということから、否定的な注目をせず、より良い信頼関係をつくっていきたいです。また、子どもの行動から気付いたことを伝えていってあげたいと思いました。

◆　対応に困る子どもというのはしつけやわがままではなく、環境と本人の特性が原因かもしれません。子どもの言葉や行動の意味が分かると自然な対応ができるようになります。つい子どもの悪い行動だけが目につき、注意してしまいますが、否定的な発言や怒る発言よりも子どもの好ましい行動に注目し、いいところをみつけて褒めてあげるということを意識していきたいです。障害のある子どものバリアとならない「指導者の対応」を心がけるよう努力したいと思います。

◆　子どもにとって、指導者も環境の１つであり、その指導者がバリアになってはいけません。子どもを褒めるとは、子どものよりよい行動に気付き、子どもへ伝えることです。子どもの行動の背景を第一に考え、子どもの好ましい行動に１つでも多く気付くことができる支援員になれるよう努めていきたいです。